議事録

会議の名称	第１回別府市協働のまちづくり推進委員会
開 催 日 時	令和５年１１月２２日（水）　９：４５～１０：４０
開 催 場 所	別府市上下水道局３階 大会議室
出　席　者	委　員：東委員、吉澤委員、中山委員、平石委員、永田委員、小野委員、山内委員　（※笠木委員、赤嶺委員、山口委員 欠席） 事務局：溝部課長、首藤係長、芹川主査、國廣主任

≪会議の内容≫

■委員長・副委員長選出

（委員長）吉澤委員　（副委員長）中山委員

・委員長、副委員長あいさつ・各委員自己紹介

■議題（１）　別府市協働のまちづくりについて

事務局から市が進める協働のまちづくりに係る施策概要等を説明。

・別府市協働指針の策定及び改定の状況、別府市協働のまちづくり推進条例の施行、協働のまちづくり推進委員会の設置等の経緯について

・協働のまちづくり推進委員会の主な役割である施策の評価及び市長への報告（条例第 10 条）、市長への答申（条例第７条）について

・協働の基本理念(協働指針 P２・条例第３条)、協働を推進していくための基本方針（５項目・協働指針 P10・条例第６条）について

■議題（２）　協働の取組について

事務局から市が行っている協働事業等について説明。

・自治連携課における中規模多機能自治の取組としてひとまもり・まちまもり協議会の活動状況について

・市職員によるボランティア組織である「地域応援隊」、「市民活動支援補助金制度」について

・市の他の部署においてもＮＰＯとの協働事業や大学・民間業者等との連携協定の締結等協働して事業を進めている。

【委員からの意見・感想等】

○ひと・まち協議会を設立して６年目となった。地域の担い手不足や少子高齢化が進む中で、各地区の各団体がまとまり、組織強化や人材育成を行ってきた。地区ごとに実施していた行事を集約し、大きな行事ができることもメリットの一つである。行事を行う際は実行委員会を組織し若い世代に参画してもらい人材育成を図っている。今年度は４年ぶりに納涼音頭大会を開催し、子どもを中心に約 1,100 人の住民が参加した。そして、昨年度からデジタル推進クラブを結成し、協議会の公式 LINE の立ち上げ、行事・活動状況を広報している。また、デジタル推進クラブのメンバーが中心となり、各町内の公民館で高齢者向けのスマホ出前教室を開催し、住民同士の交流や地域デジタル推進に向けて取組を進めている。

○若手の登用や子どもをターゲットにすることにより縦と横のつながりが強化される。行事に参加して共有した思い出は、次の担い手につながってくる。高齢者に対する情報の伝達は課題であるが、スマホ教室や公式 LINE を活用することは先行した取組である。

○ひとまもり・まちまもり協議会の活動等を他の地区の住民が知る機会や表彰をする機会があってもよいのではないか。

○ひとまもり・まちまもり協議会も含め、同じ人が複数の団体の役職を兼ねているので集約していけるとよい。協議会の活動は大切な活動だと思うので重荷にならないことが望ましい。

○別府だけではなく全国的に協働や相互扶助的な意識が下がってきている。どのようにしてもう一度高めていくかが課題である。

○地域の行事に参加したが、住民に対しての参加の広報や集客方法を工夫することが必要だと感じた。参加したくても介護等の理由で参加できない方もいるので、そういう方も地域での居場所を見つけられる取組も進めていけるとよいと思う。

○別府は障がいがある方も普通に生活しており、協働の対象は皆が対象であるというところを別府は体現していけると感じている。

○平成 29 年度から中規模多機能自治の取組を始めており、市内全域でひと・まち協議会が組織されていることが強みであり、それぞれの地域で様々な課題に取り組んでおり、今後も活動を維持し、上昇させていくための方策を委員会でも考えていきたいと思っている。

○協議会の範囲が広く、活動の実感が湧かない面もあるが、多様な地域の特性をいかした活動ができていることは良いことである。小・中学校の運動会や大学の文化祭等に地域の方が参加することにより、お互いの状況が分かり、交流や今後の活動につながっていくと思う。

■議題（3） その他

事務局から今後の開催予定等について説明。

委員会終了